

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2006-326698

(P2006-326698A)

(43) 公開日 平成18年12月7日(2006.12.7)

(51) Int. Cl. F 1 テーマコード (参考)
B 2 6 F 1/32 (2006.01) B 2 6 F 1/32 M 3 C 0 6 0

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号	特願2005-149404 (P2005-149404)	(71) 出願人	304047004 コクヨ S & T 株式会社 大阪府大阪市東成区大今里南6丁目1番1号
(22) 出願日	平成17年5月23日 (2005.5.23)	(74) 代理人	100085338 弁理士 赤澤 一博
		(72) 発明者	小池 誠一 大阪市東成区大今里南6丁目1番1号 コクヨ S & T 株式会社内
		(72) 発明者	加藤 康介 大阪市東成区大今里南6丁目1番1号 コクヨ S & T 株式会社内
		(72) 発明者	藤本 幸徳 大阪府八尾市太田4丁目6番 有限会社藤本金属製作所内
		Fターム(参考)	3C060 AA02 BA01 BG18 BH01

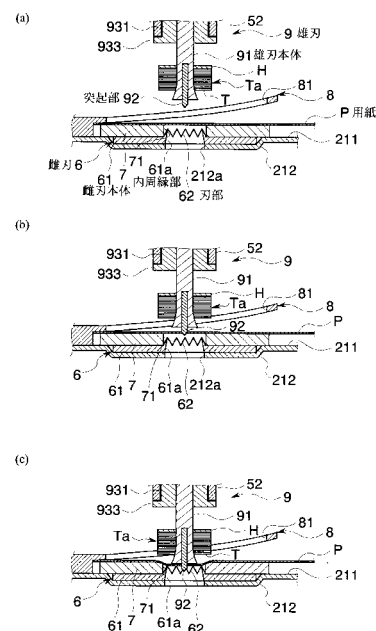
(54) 【発明の名称】 穿孔具

(57) 【要約】

【課題】 嵌合状態においてクリアランスが生じるように設定した雄刃と雌刃を備えたものであっても的確且つスムーズに穿孔することができる穿孔具を提供する。

【解決手段】 雄刃9と雌刃6とが遊嵌する穿孔具1であって、雄刃9に、この雄刃9に対し紙葉類が位置ずれすることを防止する第1位置ずれ防止部として機能する突起部92を設けるとともに、雌刃6に、この雌刃6に対して紙葉類が位置ずれすることを防止する第2位置ずれ防止部として機能する刃部62を設けた。

【選択図】 図3



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも雄刃と、当該雄刃が嵌合可能な雌刃とを具備してなり、前記雄刃と前記雌刃との間に紙等の紙葉類を挟んだ状態で前記雄刃と前記雌刃とをクリアランスをもって嵌合させることにより前記紙葉類に穿孔する穿孔具であって、

前記雄刃に、当該雄刃に対して前記紙葉類が位置ずれすることを防止する第 1 位置ずれ防止部を設けるとともに、前記雌刃に、当該雌刃に対して前記紙葉類が位置ずれすることを防止する第 2 位置ずれ防止部を設けていることを特徴とする穿孔具。

【請求項 2】

前記第 1 位置ずれ防止部が、前記雄刃本体の先端部に設けられ且つ前記紙葉類に刺さり得る突起部である請求項 1 記載の穿孔具。 10

【請求項 3】

前記第 2 位置ずれ防止部が、前記雌刃本体の内周縁部にその周方向に沿って形成した概略鋸歯状の刃部である請求項 1 又は 2 記載の穿孔具。

【請求項 4】

前記刃部が、前記雄刃に向かって立ち上がっている請求項 3 記載の穿孔具。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、紙等の紙葉類に穿孔可能な穿孔具に関するものである。 20

【背景技術】

【0002】

従来より、雄刃とこの雄刃が嵌合可能な内周径を有する雌刃とを備え、雄刃と雌刃との間に用紙を挟んだ状態で雄刃を雌刃に嵌合することにより用紙に穿孔具が各種考えられている。通常、このような穿孔具は、雄刃と雌刃とが略隙間なく嵌合するように雄刃の外周径及び雌刃の内周径それぞれの寸法が設定されており、これにより用紙に対する穿孔を的確に行えるようにしている（例えば非特許文献 1 参照）。また、雄刃が損傷した場合等に柔軟に対応できるように、雄刃を適宜取替可能に構成した穿孔具も考えられている。

【非特許文献 1】「コクヨオフィスサプライズ編 2005 度版」、コクヨ S & T 株式会社等、2004 年 12 月発行、P. 442 に示されている各種穿孔具 30

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

しかしながら、雄刃と雌刃とを略緊密に嵌合させる態様を採用している場合、雄刃を交換した際に、雄刃の取付位置が当初の取付位置と少しでもずれれば、当該雄刃を雌刃に嵌入させることができず、穿孔作業を行うことができないという不具合が発生する。そこで、嵌合状態において雄刃と雌刃との間にクリアランスが生じるように雌刃の内周径を雄刃の外周径より大きく設定し、このクリアランスによって雄刃の取付位置の位置ずれを吸収し得るように構成する態様も考えられる。しかしながら、このような態様であれば、穿孔時に雄刃と雌刃とが相互に緩く嵌合するために、雄刃が用紙を押圧した場合に、用紙が、雄刃又は雌刃の何れか一方或いは両方に対して位置ずれし易く、その結果、穿孔くずの一部が用紙から切り離されずに用紙に残るといった不具合や、穿孔位置がずれるという不具合が生じ、的確且つスムーズに穿孔することができないという問題がある。 40

【0004】

本発明は、このような課題に着目してなされたものであって、主たる目的は、嵌合状態においてクリアランスが生じるように設定した雄刃と雌刃を備えたものであって的確且つスムーズに穿孔することができる穿孔具を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0005】

すなわち、本発明の穿孔具は、少なくとも雄刃と、当該雄刃が嵌合可能な雌刃とを具備 50

してなり、前記雄刃と前記雌刃との間に紙等の紙葉類を挟んだ状態で前記雄刃と前記雌刃とをクリアランスをもって嵌合させることにより前記紙葉類に穿孔する穿孔具であって、前記雄刃に、この雄刃に対して前記紙葉類が位置ずれすることを防止する第1位置ずれ防止部を設けるととともに、前記雌刃に、この雌刃に対して前記紙葉類が位置ずれすることを防止する第2位置ずれ防止部を設けていることを特徴とする。

【0006】

このようなものであれば、嵌合状態において雄刃と雌刃との間に若干のクリアランスが生じる、すなわち雄刃と雌刃とが遊嵌するように設定したものであっても、紙葉類が、第1位置ずれ防止部及び第2位置ずれ防止部により雄刃及び雌刃に対して位置ずれしないため、穿孔作業によって用紙に形成される綴じ孔の周縁部等の用紙の一部がクリアランスに不意に入り込むことを規制し、その結果、穿孔くずの一部が用紙から切り離されずに用紙に残るといった不具合や、穿孔位置がずれるといった不具合が生じることなく、的確且つスムーズに穿孔することができる。また、雄刃を取替可能に構成した場合であっても、雄刃の取付位置のずれをクリアランスにより吸収することができ、実用性に優れたものとなる。

10

【0007】

前記第1位置ずれ防止部の具体的な実施態様としては、前記雄刃本体の先端部に設けられ且つ前記紙葉類に刺さり得る突起部が挙げられる。

【0008】

他方、前記第2位置ずれ防止の具体的な実施態様としては、前記雌刃本体の内周縁部にその周方向に沿って形成した概略鋸歯状の刃部が挙げられる。この場合、前記刃部が、前記雄刃に向かって立ち上がっているものであれば、刃部が雌刃本体よりも優先して紙葉類に当接して刺さるため、より確実に紙葉類が雌刃に対して位置ずれすることを防止することができる。

20

【発明の効果】

【0009】

以上説明したように本発明によれば、雄刃を雌刃に嵌入した状態において雄刃と雌刃との間にクリアランスが生じるように設定したものであっても、紙葉類が、第1位置ずれ防止部及び第2位置ずれ防止部により雄刃及び雌刃に対して位置ずれしないため、穿孔時に用紙の一部（穿孔作業によって用紙に形成される綴じ孔の周縁部）がクリアランスに嵌り込むことなく、的確且つスムーズに穿孔することができる。また、雄刃を取替可能に構成した場合であっても、雄刃の取付位置のずれをクリアランスにより吸収することができ、実用性に優れたものとなる。

30

【発明を実施するための最良の形態】

【0010】

以下、本発明の一実施形態を、図面を参照して説明する。

【0011】

本実施形態に係る穿孔具1は、雄刃9と、この雄刃9が嵌合可能な雌刃6とを具備してなり、雄刃9と雌刃6との間に紙葉類たる用紙Pを挟んだ状態で雄刃9と雌刃6とを嵌合させることにより用紙Pに穿孔するものであり、具体的には、図1に示すように、雌刃6を備えたベース2と、使用者が穿孔する際に所定の操作力を直接付与する操作部3と、ベース2と操作部3との間に介在し操作部3を支持する支持部4と、雄刃9を着脱可能に保持し且つ操作部3に所定の操作力が付与された場合に支持部4に対してスライド動作し得る可動部5とを具備したものである。

40

【0012】

ベース2は、ベース本体21と、ベース本体21を収容し得るベースカバー22とを備えている。

【0013】

ベース本体21は、例えば一枚の板金素材からなり、平面視概略矩形状の底面部211と、底面部211の四辺を下方へ屈曲させた図示しない垂下片とを一体に有するものである。底面部211の後縁部側における所定箇所に他の部位より窪ませなる凹部212を設

50

け、この凹部 2 1 2 に雌刃 6 を收容している（後述する図 4（a）等参照）。本実施形態では、凹部 2 1 2 を所定距離離間させた 2 箇所 に設け、各凹部 2 1 2 にそれぞれ雌刃 6 を收容している。各凹部 2 1 2 の中央部に、肉厚方向に貫通する貫通孔 2 1 2 a を設けている。

【0014】

雌刃 6 は、図 2 に示すように、例えば金属製のものであり、概略円盤状をなす雌刃本体 6 1 と、雌刃本体 6 1 の内周縁部 6 1 a に形成した刃部 6 2 とを一体に有するものである。刃部 6 2 は、概略鋸歯状をなし、後述する雄刃 9 に向かって立ち上がっている。この雌刃 6 を凹部 2 1 2 に適宜の手段で着脱不能に固定している。この固定状態において、雌刃本体 6 1 の内周縁部 6 1 a と凹部 2 1 2 の貫通孔 2 1 2 a とが連通している。また、雌刃本体 6 1 を上方から被覆し得る位置にバックアップ部材 7 を設けている。このバックアップ部材 7 は、例えばウレタン素材からなり、中央部に雌刃本体 6 1 の内周縁部 6 1 a の径よりも若干大きい径を有する丸孔 7 1 を形成している。本実施形態では、バックアップ部材 7 の厚み寸法を刃部 6 2 の立ち上がり寸法よりも若干大きく設定し、バックアップ部材 7 の下面側に塗布した両面テープ又は接着剤等によりバックアップ部材 7 を雌刃本体 6 1 及びベース本体 2 1 の底面部 2 1 1 に固着している。さらに、用紙 P をバックアップ部材 7 との間で挟み込んだ状態で押さえ得る紙押さえ部 8 を、雌刃 6 を取り付けた箇所の近傍に設けている。この紙押さえ部 8 は、例えば半透明の合成樹脂素材からなり、先端部に向かって漸次反り上げた形状をなし、バックアップ部材 7 の外径よりも若干小さい径を有する通し孔 8 1 を形成しており、この通し孔 8 1 と、バックアップ部材 7 の丸孔 7 1 と、雌刃 6 の内周縁部 6 1 a と凹部 2 1 2 の貫通孔 2 1 2 a とが連通するように、後端部をベース本体 2 1 に着脱可能に固定している（後述する図 4（a）等参照）。

10

20

【0015】

ベースカバー 2 2 は、例えば合成樹脂素材からなり、上方を開放した中空の概略直方体状をなし、ベース本体 2 1 を收容した状態において、穿孔作業によって切り取られる用紙 P の切片、すなわち穿孔くず P b を收容する穿孔くず收容部として機能する。このベースカバー 2 2 は、ベース本体 2 1 と適宜の係合手段で係合しており、ベースカバー 2 2 とベース本体 2 1 との係合状態を解除してベースカバー 2 2 をベース本体 2 1 から取り外すことによりベースカバー 2 2 の内部に溜まった穿孔くず P b を廃棄することができるようにしている。

30

【0016】

操作部 3 は、例えば合成樹脂素材からなり、下方に開口してなる中空の概略直方体状をなし、本実施形態では上部における両側縁部が丸みを帯びる形状を採用している。

【0017】

支持部 4 は、下端部をベース本体 2 1 に固定するとともに、上端部を図示しないバネ等を用いて構成したリンク機構を介して操作部 3 の内部に取り付けたものである。本実施形態では、下端部の後半部をベース本体 2 1 の後端部側に固定し、この固定した状態で下端部の前半部とベース本体 2 1 の底面部 2 1 1 との間に用紙 P が挿入可能な用紙挿入スペース P S を形成している。支持部 4 の前面部には、次に説明する可動部 5 のスライド動作を案内し得る案内部 4 1 を左右一対に形成している。

40

【0018】

可動部 5 は、前記リンク機構を介して操作部 3 及び支持部 4 に関連付けて設けたものであり、支持部 4 の案内部 4 1 に直接案内される可動部本体 5 1 と、可動部本体 5 1 の両端にそれぞれ設けられ雄刃 9 を保持するホルダー部 5 2 とを備える。本実施形態では、可動部本体 5 1 とホルダー部 5 2 とを合成樹脂素材を用いて一体に形成している。

【0019】

ホルダー部 5 2 は、雄刃 9 を着脱可能に保持するものであり、下方に開放した概略円筒状をなすものである。このホルダー部 5 2 に、外側方及び前方に連続して一部開放させてなる側方開口部 5 2 1 及び前方開口部 5 2 2 を形成し、これら側方開口部 5 2 1 及び前方開口部 5 2 2 を利用して雄刃 9 を取り付けている。

50

【0020】

雄刃9は、図2に示すように、概略円柱状の雄刃本体91と、雄刃本体91の先端部（本実施例では下端部）に設けられ用紙Pに刺さり得る突起部92と、雄刃本体91の基端部（本実施例では上端部）側における略半部位を被覆するように取り付けられ前記ホルダ一部52に係合可能な係合保持部93とを備えている。

【0021】

雄刃本体91は、例えば合成樹脂素材からなり、先端部における外径を先端に向かって漸次大きく設定した概略棒状をなしている。雄刃本体91の最大外径寸法を、雌刃6の内周縁部61aの径寸法よりも小さく設定している。

【0022】

突起部92は、例えば概略棒状の金属素材からなり、先端部（本実施例では下端部）を尖らせ、この先端部が雄刃本体91の先端部に表出するように雄刃本体91に抜脱不能に取り付けている。

【0023】

係合保持部93は、平面視略小判状をなし内部に雄刃本体91を収容し得る本体部931と、本体部931の上端部に設けた段付ピン部932と、本体部931の下端部に設けた略円盤状の鏝部933と、本体部931の円弧状をなす側面部から側方に突出し把持可能な把持部934とを一体に有するものである。

【0024】

なお、本実施形態では、雄刃本体91に、穿孔作業により用紙Pに形成される綴じ孔Paの周縁部を保護する保護シートとして機能するいわゆるパッチTを複数枚積層してなるパッチセットTaを取替可能に取り付けている。各パッチTは、円盤状をなした半透明のシールであり、用紙Pに対向する面（本実施形態では下面側）に糊等の接着剤を塗布しており、このパッチTを複数枚積層状に重合することにより、一のパッチセットTaを形成している。各パッチTの内径を、雄刃本体91の外径よりも若干大きく設定している。このようなパッチセットTaを、前記係合保持部93を取り付ける前の雄刃本体91に、その基端部（本実施例では上端部）側から挿入する。この場合、雄刃本体91の先端部の外径を漸次大きく設定することにより、パッチセットTaが雄刃本体91の先端側から容易に抜け落ちないようにしている。次いでクッション材として機能する略円盤状のパッチ押さえ部Hを雄刃本体91の基端部側から挿入し、係合保持部93を雄刃本体91の基端部側に取り付けることにより、雄刃9にパッチセットTaをセットすることができる。

【0025】

このような雄刃9を、可動部5のホルダ一部52に保持させるには、まず、雄刃9の把持部934の突出方向を、ホルダ一部52の側方開口部521の開口方向と一致させるように把持し、側方開口部521から雄刃9をホルダ一部52の内部に挿入する。次いで、把持部934がホルダ一部52の前方開口部522に位置するように把持部934を把持しながら雄刃9を回動させる。これにより、係合保持部93の段付ピン部932がホルダ一部52の内部に設けた引っ掛かり部52a（図1参照）に係合し、雄刃9がホルダ一部52に安定した状態で保持される。この保持状態において、ホルダ一部52の下端部側に係合保持部93の鏝部933が位置付けられるとともに、雌刃6の刃部62の上方に雄刃本体91が位置付けられる。

【0026】

次に、このような構成を有する穿孔具1の使用方法及び作用を、図3及び図4に示す作用説明図を参照しながら説明する。なお、図3及び図4は、穿孔時における雄刃9の動作を中心に穿孔具1の穿孔動作を模式的に示すものである。

【0027】

まず、穿孔する用紙Pを穿孔具1の前方から前記用紙挿入スペースPSに挿入するとともに、紙押さえ部8を利用して用紙Pの所定部位（本実施形態では綴じ孔Pa形成箇所近傍部位）を押さえる（図3（a）参照）。なお、支持体に形成される2つの綴じ孔Paの中間位置である旨を表示する中間位置表示部を設け、この中間位置表示部を目安にして用

10

20

30

40

50

紙 P をセットするようにしてもよい。次に操作部 3 を下方へ押す操作力を操作部 3 に付与すると、操作部 3 と共に可動部 5 が図示しないリンク機構を介して支持部 4 に対して下方にスライド移動し、所定距離下方にスライド移動した時点で、ホルダー部 5 2 に保持された雄刃 9 の突起部 9 2 が紙押さえ部 8 の通し孔 8 1 を通過して用紙 P に刺さる（同図（b）参照）。これにより、用紙 P に対する雄刃 9 の位置が位置決めされ、用紙 P と雄刃 9 との相対位置が不意にずれを防止する。このように雄刃 9 の突起部 9 2 が、雄刃 9 に対して用紙 P が位置ずれすることを防止する本発明の第 1 位置ずれ防止部として機能する。

【0028】

次いでそのまま前記操作力を付与し続けると、雄刃本体 9 1 の先端部（本実施例では下端部）が用紙 P のオモテ面に当接し、この用紙 P における当接部位及びその近傍部位が下方へ押し込まれ、バックアップ部材 7 が弾性変形してへこみ、雌刃 6 の刃部 6 2 が雌刃本体 6 1 よりも優先して用紙 P のウラ面に当接して食い込む（同図（c）参照）。これにより、用紙 P に対する雌刃 6 の位置が位置決めされ、用紙 P と雌刃 6 との相対位置が不意にずれを防止する。このように雌刃 6 の刃部 6 2 が、雌刃 6 に対して用紙 P が位置ずれすることを防止する本発明の第 2 位置ずれ防止部として機能する。

10

【0029】

さらに前記操作力を付与し続けることにより、雄刃本体 9 1 が雌刃 6 の内周縁部 6 1 a に入り込み、用紙 P のうち雄刃本体 9 1 の先端部に当接する部位及びその近傍部位が、下方へ押し込まれるとともに雌刃 6 の刃部 6 2 によって切断され、この切断されてなる穿孔くず P b を突起部 9 2 に刺したまま雄刃本体 9 1 がベース本体 2 1 の凹部 2 1 2 に形成した貫通孔 2 1 2 a に入り込む（図 4（d）参照）。その結果、用紙 P に綴じ孔 P a が形成されるとともに、綴じ孔 P a の周縁部に、パッチセット T a のうち最も下端に位置するパッチ T の下面が用紙 P に当接する。また、本実施形態では、雄刃本体 9 1 を雌刃 6 の内周縁部 6 1 a に挿入した状態において、雄刃本体 9 1 と内周縁部 6 1 a との間にクリアランスが生じるように設定している。

20

【0030】

引き続き前記操作力を付与し続けると、雄刃 9 がさらに下方へ沈み込む一方、用紙 P の綴じ孔 P a 周縁部に当接するパッチセット T a 及びこのパッチセット T a の上方に位置する前記パッチ押さえ部 H はそれ以上の下方への移動が規制され、雄刃 9 が所定距離下方へ移動した時点で、パッチ押さえ部 H と係合保持部 9 3 の鏝部 9 3 3 とが当接し、この鏝部 9 3 3 及びパッチ押さえ部 H によりパッチセット T a がさらに下方へ押さえ込まれ、パッチセット T a のうち最も下端に位置するパッチ T の下面が綴じ孔 P a の周縁部に圧接する（同図（e）参照）。この際、綴じ孔 P a の周縁部はパッチ T とバックアップ部材 7 との間で圧接された状態となっている。

30

【0031】

そして、前記操作力を停止することにより、前記リンク機構の作用（バネ等の弾性復帰力）により可動部 5 及び操作部 3 が元の位置に戻り、すなわち可動部 5 及び操作部 3 が上方にスライド移動し、これに伴って可動部 5 のホルダー部 5 2 に保持された雄刃 9 も上方に移動し、経時的に、雄刃 9 の突起部 9 2 に刺さった穿孔くず P b がベース 2 の凹部 2 1 2 に形成した貫通孔 2 1 2 a の縁部に当たって下方に抜け落ちるとともに、綴じ孔 P a の周縁部にパッチセット T a のうち最も下端に位置するパッチ T が貼着される（同図（f）参照）。なお、穿孔くず P b は、前記穿孔くず収容部として機能するベースカバー 2 2 の内部に収容される。最後に、用紙 P を用紙挿入スペース P S から取り外し、形成された綴じ孔 P a を利用して、図示しない適宜の綴じ具に綴じ込むことができる用紙 P となる。またバックアップ部材 7 も弾性復帰する。

40

【0032】

このように、本実施形態に係る穿孔具 1 は、雄刃 9 に、雄刃 9 に対して用紙 P が位置ずれすることを防止する第 1 位置ずれ防止部として機能する突起部 9 2 を設けるとともに、雌刃 6 に、雌刃 6 に対して用紙 P が位置ずれすることを防止する第 2 位置ずれ防止部と

50

して機能する刃部 6 2 を設けているため、雄刃本体 9 1 を雌刃 6 の内周縁部 6 1 a に嵌入した状態において雄刃本体 9 1 と雌刃 6 の内周縁部 6 1 a との間にクリアランスが生じるように設定したものであっても、突起部 9 2 及び刃部 6 2 が用紙 P に刺さる又は食い込むことより、用紙 P が雄刃 9 及び雌刃 6 に対してそれぞれ位置ずれせず、穿孔時に用紙 P の一部（穿孔操作によって用紙 P に形成される綴じ孔 P a の周縁部）がクリアランスに不意に入り込むことを防止し、的確且つスムーズに穿孔することができる。また、本実施形態のように、雄刃 9 を取替可能に構成している場合、突起部 9 2 の損傷やパッチセット T a の詰替等により雄刃 9 を取り替える又は雄刃 9 の再取付の際に、当初の取付位置のずれをクリアランスにより吸収することができ、実用性に優れたものとなる。

【0033】

10

特に、雄刃本体 9 1 の先端部に設けられ且つ用紙 P に刺さり得る突起部 9 2、及び雌刃本体 6 1 の内周縁部 6 1 a にその周方向に沿って形成した概略鋸歯状の刃部 6 2 により、雄刃 9 及び雌刃 6 に対して用紙 P が位置ずれすることを防止しているため、極めて簡素な構造を採用しつつ、雄刃 9 及び雌刃 6 に対して用紙 P が位置ずれすることを確実に防止することができる。

【0034】

特に、刃部 6 2 が、雄刃 9 に向かって立ち上がっているため、刃部 6 2 が雌刃本体 6 1 よりも優先して用紙 P に当接して食い込み、より確実に用紙 P が雌刃 6 に対して位置ずれすることを防止することができる。

【0035】

20

なお、本発明は、以上に詳述した実施形態に限られるものではない。

【0036】

例えば、前記実施形態では、雄刃本体の先端部に設けた一の突起部により第 1 位置ずれ防止部を構成する態様を採用したが、例えば雄刃本体の先端部に設けた複数の突起部により第 1 位置ずれ防止部を構成する態様を採用してもよい。また、突起部が金属素材からなるものではなく、合成樹脂素材からなるものであっても構わない。さらには、突起部を雄刃本体と一体に形成したものであってもよい。また、第 1 位置ずれ防止部として、紙葉類に食い込み得る刃部を採用してもよい。

【0037】

また、第 2 位置ずれ防止部として機能する鋸歯状の刃部を、雄刃に向かって起立させた形状とせず、径方向に突出させた形状としてよい。この場合、雌刃本体より優先して紙葉類に当接させることはできないが、このような刃部であっても、内周縁部内に雄刃が嵌入する際にこの刃部が紙葉類に食い込むため、用紙が雌刃に対して位置ずれすることを防止することができる。

30

【0038】

また、雄刃及び雌刃を適宜増減して一穴用穿孔具あるは多穴用穿孔具としてもよい。

【0039】

また、パッチを貼着するタイプではなく、穿孔専用の穿孔具としても勿論構わない。

【0040】

その他、各部の具体的構成についても上記実施形態に限られるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々変形が可能である。

40

【図面の簡単な説明】**【0041】**

【図 1】本発明の一実施形態に係る穿孔具の全体概略図。

【図 2】同実施形態における雄刃及び雌刃の概略図。

【図 3】作用説明図。

【図 4】作用説明図。

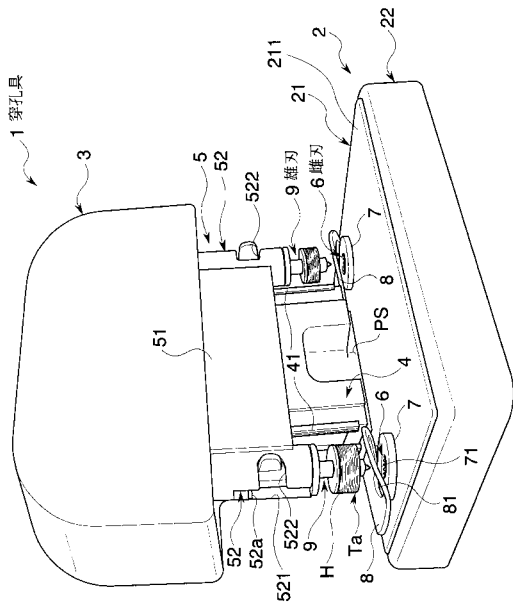
【符号の説明】**【0042】**

1 ... 穿孔具

50

- 6 ... 雌刃
- 6 1 ... 第 2 位置ずれ防止部 (雌刃本体)
- 6 1 a ... 内周縁部
- 6 2 ... 刃部
- 9 ... 雄刃
- 9 1 ... 雄刃本体
- 9 2 ... 第 1 位置ずれ防止部 (突起部)
- P ... 紙葉類 (用紙)

【 図 1 】



【 図 2 】

